資料１

## （１）学校別の児童生徒数と学級数の推移

【小学校の児童数・学級数の比較（過去１０年)】

・小学校では、過去 10 年間で児童数は約１０％減少している。

・児童数・学級数ともに増加している学校もあるが、中心部や北部地域で 40%以上減少している学校も見られる。

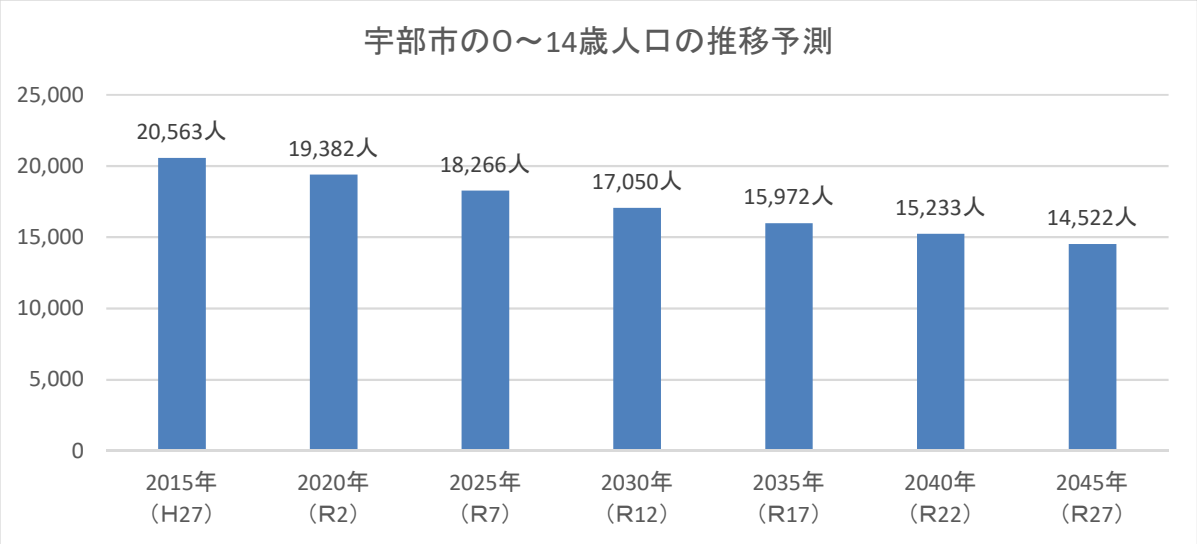
・

| | 平成 25 年度(A) | | | 令和 5 年度(B) | | | 増減率(B-A)/A (%) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校名 | 児童数 | 学級数 (複式) | 特別支援学級 | 児童数 | 学級数 (複式) | 特別支援学級 | 児童数 | 学級数 |
| 東岐波小学校 | 746 | 25 | 2 | 535 | 18 | 2 | -28.3% | -26.9% |
| 西岐波小学校 | 629 | 20 | 2 | 642 | 21 | 6 | 2.1% | 4.8% |
| 恩田小学校 | 550 | 18 | 2 | 745 | 24 | 4 | 35.5% | 21.1% |
| 上宇部小学校 | 660 | 22 | 4 | 598 | 20 | 4 | -9.4% | -8.7% |
| 岬小学校 | 212 | 9 | 4 | 157 | 6 | 4 | -25.9% | -25.0% |
| 見初小学校 | 117 | 6 | 3 | 96 | 6 | 1 | -17.9% | 0.0% |
| 琴芝小学校 | 407 | 15 | 3 | 287 | 12 | 4 | -29.5% | -20.0% |
| 神原小学校 | 280 | 12 | 2 | 316 | 12 | 3 | 12.9% | 0.0% |
| 新川小学校 | 390 | 14 | 4 | 458 | 16 | 6 | 17.4% | 6.7% |
| 鵜ノ島小学校 | 230 | 10 | 2 | 112 | 6 | 2 | -51.3% | -45.5% |
| 藤山小学校 | 682 | 22 | 2 | 519 | 18 | 4 | -23.9% | -21.7% |
| 厚南小学校 | 576 | 19 | 2 | 585 | 19 | 3 | 1.6% | -5.3% |
| 原小学校 | 267 | 12 | 1 | 270 | 12 | 3 | 1.1% | 0.0% |
| 厚東小学校 | 67 | 6 | 0 | 69 | 6 | 1 | 3.0% | 0.0% |
| 二俣瀬小学校 | 40 | 5 (1) | 0 | 21 | 3 (3) | 0 | -47.5% | -40.0% |
| 小野小学校 | 29 | 4 (2) | 1 | 21 | 3 (3) | 1 | -27.6% | -40.0% |
| 常盤小学校 | 485 | 18 | 3 | 442 | 16 | 3 | -8.9% | -5.9% |
| 小羽山小学校 | 346 | 13 | 2 | 282 | 11 | 2 | -18.5% | -25.0% |
| 西宇部小学校 | 380 | 14 | 2 | 253 | 11 | 2 | -33.4% | -14.3% |
| 川上小学校 | 625 | 20 | 4 | 402 | 13 | 2 | -35.7% | -33.3% |
| 黒石小学校 | 522 | 18 | 2 | 684 | 22 | 5 | 31.0% | 29.4% |
| 吉部小学校 | 27 | 4 (2) | 1 | 24 | 4 (2) | 0 | -11.1% | 0.0% |
| 万倉小学校 | 49 | 6 | 0 | 32 | 4 (2) | 0 | -34.7% | -50.0% |
| 船木小学校 | 232 | 11 | 2 | 124 | 6 | 3 | -46.6% | -50.0% |
| 合計 | 8548 | 321 (5) | 50 | 7674 | 289 (10) | 65 | -10.2% | -26.9% |

【中学校の生徒数・学級数の比較（過去１０年)】
・中学校では、1 校のみ生徒数が増加している学校もあるが、それ以外では全て減少している。
・東部及び北部地域では 30%以上生徒数が減少している学校がある。

| | 平成 25 年度(A) | | | 令和 5 年度(B) | | | 増減率(B-A)/A(%) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学校名 | 生徒数 | 学級数（複式） | 特別支援学級 | 生徒数 | 学級数（複式） | 特別支援学級 | 生徒数 | 学級数 |
| 東岐波中学校 | 430 | 14 | 3 | 298 | 10 | 3 | -30.7% | -28.6% |
| 西岐波中学校 | 505 | 15 | 2 | 451 | 13 | 3 | -10.7% | -13.3% |
| 常盤中学校 | 507 | 15 | 3 | 490 | 14 | 3 | -3.4% | -6.7% |
| 上宇部中学校 | 483 | 15 | 2 | 422 | 13 | 4 | -12.6% | -13.3% |
| 神原中学校 | 211 | 6 | 4 | 179 | 6 | 2 | -15.2% | 0.0% |
| 桃山中学校 | 370 | 12 | 2 | 313 | 9 | 3 | -15.4% | -25.0% |
| 藤山中学校 | 459 | 15 | 2 | 303 | 9 | 3 | -34.0% | -40.0% |
| 厚南中学校 | 482 | 15 | 2 | 405 | 12 | 2 | -16.0% | -20.0% |
| 川上中学校 | 311 | 10 | 2 | 226 | 8 | 4 | -27.3% | -20.0% |
| 黒石中学校 | 411 | 13 | 2 | 439 | 14 | 3 | 6.8% | 7.7% |
| 楠中学校 | 188 | 7 | 1 | 86 | 3 | 2 | -54.3% | -57.1% |
| 厚東川中学校 | 79 | 6 | 3 | 54 | 3 | 2 | -31.6% | -50.0% |
| 合計 | 4,436 | 143 | 28 | 3666 | 114 | 34 | -17.4% | -20.3% |

### （２）本市の将来推計人口
・国立社会保障・人口問題研究所が取りまとめた将来推計人口では、本市の人口は令和 2 年から令和 27 年の 25 年間で３２，３５１人の減.と推計
・このうち０歳から１４歳までの人口は４８６０人の減で２５年間で２５%減少する見込み。




出典：「日本の地域別将来推計人口（平成 30 年(2018)年 3 月推計」（国立社会保障・人口問題研究所）

資料２

# 今後の取組（案）

## １．方向性

・本計画期間も含め、今後、老朽化した校舎の建て替えに合わせ学校の適正配置を進める場合は、施設一体型小中一貫校または義務教育学校（以下、義務教育学校等という。）の設置を目指す。

・施設一体型の小中一貫校の新設については、中学校の学区内のいずれかの学校の現在地を第一候補（基本）とするが、中学校の学区内により立地条件のよい適当な敷地があれば、当該地への移転新設も検討していく。

## ２．市街地地域の中学校再編と統合について

◆ **神原中・上宇部中ブロック・・・【案１】**

（常盤中・（仮）見初中・上宇部中ブロック案も含み検討後）

◆ **西岐波中・常盤中ブロック・・・【案１】**

### 神原中・上宇部中ブロック

**【案１】（神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝１区から１－１０区までを除く））を選択した理由**

・立地や規模、通学環境等、全体的にバランスがよい。

・前回の適正配置に係る協議会等の流れに沿っている。

・学校選択制導入地域からの理解も得られやすい。

・将来的に義務教育学校をめざしやすい。

**再編に向けて**

〇神原中の学校区を神原・見初・琴芝全区（琴芝１区から１－１０区までを除く）に再編。

〇令和１３年度頃から３小１中の小中一貫校の建設に向けて準備開始（学校の適正規模・校舎の老朽度の状況などから）

〇見初小については、小中一貫校が新設されるまでの間は、少人数学習など小規模校の良さを生かした教育を推進するとともに、神原小や琴芝小との合同行事や ICT を活用した合同学習を実施しながら、３小１中への滑らかな移行に向けた準備を行っていく。

〇学区の再編が完了した時点で、学校選択制は廃止していく。

## 西岐波中・常盤中ブロック

**【案１】（西岐波中に常盤全区）を選択した理由**

・現在、常盤小の３分の２の児童が西岐波中に進学しており、小中一貫教育の連携も西岐波中と図られている。

・今後、西岐波中の生徒数も年々減少していく見込みである（過去１０年間で約１１％減）。

・再編により、遠距離となる生徒の通学方法については、公共交通の利用などを検討していく。

**再編に向けて**

〇岬小については、平成３０年に建設された市内最新の施設であり、隣接に過大規模の恩田小があることなどから、区域変更により学校規模の調整を図る。

〇学区の再編が完了した時点で、学校選択制は廃止していく。

③学区再編スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>R6年度<br>（１年目）</th><th>R7年度<br>(2年目)</th><th>R8年度<br>(3年目)</th><th>R9年度<br>(4年目)</th><th>R10年度<br>(5年目)</th><th>R11年度<br>(6年目)</th><th>R12年度<br>(7年目)</th><th>R13年度<br>(8年目)</th><th>R14年度<br>(9年目)</th><th>R15年度<br>(10年目)</th></tr>
<tr><td>藤山中</td><td rowspan="3">地域説明<br>・協議</td><td colspan="2">再編準備</td><td colspan="5">中学校区の再編（藤山小・鵜ノ島小）</td><td rowspan="3">2小１中<br>小中一貫校<br>開校</td><td rowspan="3"></td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>藤山小</td><td>２小１中<br>小中一貫校<br>基本設計</td><td>実施設計</td><td colspan="5">施工</td></tr>
<tr><td>鵜ノ島小</td><td colspan="7">開校準備委員会設置（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">再編準備</td><td colspan="5">藤山中学校へ進学</td></tr>
<tr><td>神原中</td><td rowspan="4">地域説明</td><td colspan="3" rowspan="2">地域協議<br>再編準備</td><td colspan="4" rowspan="2">中学校区の再編<br>（神原小・見初小・琴芝小）</td><td>３小１中<br>小中一貫校<br>基本設計</td><td>実施設計</td><td>施工<br>R19年度<br>開校目途</td></tr>
<tr><td>神原小</td><td colspan="3">開校準備委員会設置<br>（開校に向けた検討・準備）</td></tr>
<tr><td>琴芝小</td><td colspan="7" rowspan="2">神原小・琴芝小との交流や合同学習・小規模校のメリットを生かした教育の充実（R19年度新設一貫校へ）</td></tr>
<tr><td>見初小</td></tr>
<tr><td>常盤中</td><td rowspan="3">地域説明</td><td colspan="3" rowspan="3">地域協議<br>再編準備</td><td colspan="5">学校区の再編（恩田小・岬小）</td></tr>
<tr><td>恩田小</td><td colspan="5">学校区の再編（琴芝小の一部編入・恩田小一部岬小へ）</td></tr>
<tr><td>岬小</td><td colspan="5">学校区の再編（恩田小の一部編入）</td></tr>
<tr><td>西岐波中</td><td rowspan="2">地域説明</td><td colspan="3" rowspan="2">地域協議<br>再編準備</td><td colspan="5">学校区の再編（西岐波小・常盤小）</td></tr>
<tr><td>常盤小</td><td colspan="5">西岐波中学校に進学</td></tr>
</table>

※学区再編スケジュールについては、今後の取組をイメージしていただくため、仮に作成しているものです。

## 選択区域等の区域変更案（議事１）及び中学校の区域変更案（議事２）に関するご意見

### １　選択区域等の区域変更案（資料4-1）

| ご意見 |
| --- |
| ■「小中ブロックを見直し、進学先が分かれる小学校の解消」及び、「学校選択制は廃止」という市の基本的な考え方を尊重する。その上で、現在選択区域になっている地域はもとより、恩田１３区等のように新たな地域も含めて、可能な範囲で校区の再編を検討したい。検討に当たっては、「安心・安全な教育環境」の観点から、「通学の距離や時間」を判断する上での優先事項としたい。<br><br>■琴芝⇒神原選択　半径１Kmがベスト現実的<br><br>■地図を見るとよりわかりやすいのですが、今の学区変更はこの市街地では難しいと思います。理由は、学校選択制が導入されておりすでにその流れができていることで保護者の理解が得られにくいこと、そもそも合併することにメリットよりもデメリットの方が大きく感じられるからです。琴芝、恩田は校区が広いことから、通学距離の説明から学区変更を変えることに対して多少の理解が得られると思いますが、そもそも今の学区に満足していたり、小さな学校への転入を嫌がる家庭は一定数いらっしゃると思います。住民および保護者の理解が得られなければ学区変更および統合措置は到底無理な話だと思います。せめて、未来を見据えた小中一貫校の新設など地域が夢をもてる話をうちださなければ、ここで審議した案も地域から跳ね返されて終わるだろうと危惧しています。何のための、誰のための適正配置なのか。これからの宇部の未来を担うこどもたちのために適正規模を保ち、なおかつ小中一貫校の推進を打ち出したのなら、そこに予算を付けるのが筋ではないでしょうか？予算がないから新設は無理ですとなると、そもそも審議すること自体破綻しているように感じます。<br><br>■琴芝地域の１区から１区－１０までの区域の指定については、地理的に考えても無理な変更ではないと考えます。<br>またそれ以外の神原小学校、琴芝小学校の選択区域をなくし、中学校の区域変更で対応する事は、モデル３を除けば、この地区で選択区域を作成した際の通学児童の要望をクリア出来ると考えます。<br>モデル３について考えると、児童数と通学距離から考えるとそれも妥当とは考えますが、現在の選択区域の問題（なぜ選択区域が出来たのか）が置き去りになるのでこれを推進した場合、相当な抵抗が想定されると思います。<br>岬小学校と恩田小学校の通学区域の変更については、通学距離と児童数を考慮しまた、新たに定められた区域もあり小学校の適正規模を考慮するとこのようにするのが妥当とも考えます。<br>ただし、通学区域の変更については、選択ではなくその区域の児童は指定さてた学校に通学する事が定められる事から、それを望まない方（通学路の問題等の理由）もいる事を想定して、そうする理由（なぜそうする必要があるのか、なぜ今のままではいけないのか、中学校の通学区域の変更も併せ）を明確に示し、理解してもらう事が必要と考えます。<br><br>■現行の学校位置での検討は、様々な面で困難を感じる。将来を見据え、校舎の建て替え等も含め、校区の整理をすることが必要と考える。<br>また、現行の常盤中学校の位置は、校区の一番端に位置し、多くの生徒(全校生徒の8割)が自転車で通学しており、自転車通学生徒の人数や学校周辺の道路状況等、通学上の安全面が非常に気になるところである。<br><br>■恩田小、岬小の選択区域は、恩田校区は広く、岬小に行ったほうが近い校区も多いと思います。適正な人数を考えると赤、青枠は両方とも岬小に行くほうがいいと思います。また通学距離が短くなることは、安全に学校に通えることにも繋がると考えます。<br>琴芝小、神原小の選択区域では、両校が近いこともあり、どちらに行ってもいいと思いますが、通っている学校ではない学校を通り過ぎて学校に通うのはおかしいと感じます。<br><br>■数字合わせだけでは、これがよいという考えになりません。<br>地図だけではなく実際に現地を知り、地理的状況を多少なりとも把握しないと判断していくのが難しいと思います。 |

■・中学校の区域変更案を検討を進めることも大切ですが、他の事業と足並みを揃えて考える必要がある。（例：見初小学校内にふれあいセンターを建設する件について）
・中学校の区域変更を検討するにも現状の施設規模を使用することが前提となっており、学校の施設規模を考慮しながらの適正化を検討するのは難しさがある（例：常盤中学校）
・適正な集団規模への見直しと並行して安心・安全な教育環境がどうあるべきかを合わせて考える必要があると思います。（通学路の安全も守られる環境なのか？、学校施設が国道など大きな道路で隔てられていないか）子ども達の命を守るため、小さなリスクも見逃さないようにしていただきたい。
■私自身、子どもの小学校入学時に、学区を配慮し選択区域（琴芝15区）でのマンション購入を決めた。神原小に子どもを通わせる選択区域の家庭は、住宅購入時の決め手の大きな要素になっていると感じるため、５年後に廃止となれば、該当の家庭からの反発は当然あると思う。ゆえに、今回の学校統合により受けられる教育の質の向上を理解していただくことが必須になるのではないか。

## ２　中学校の区域変更案

### ◆西岐波中・常盤中ブロック

| 学区 | | | 案 | 推奨できる理由や懸案事項など | |
|---|---|---|---|---|---|
| 西岐波中 | 常盤中 | | 【案１】<br>西岐波中に<br>常盤全区<br><br>**《地図》**<br>**資料４－２** | **【推奨できる】**<br>■地図と人数だけ見るとわかりやすい合併に見える。シンプル。通学距離の問題は、スクールバスなどで安全面を確保するなど対応が必要<br><br>■常盤小の過半数は西岐波中に進学。小中一貫も見えてくる。<br><br>■【推奨理由】<br>・生徒数の観点からは、両校とも適正規模の範囲<br>・小中一貫教育を推進する観点からは、1小学校から2中学校進学が解消<br>【懸案事項】<br>・通学距離の観点からは、常盤中周辺の生徒が西岐波中に通学することで距離が遠くなり生徒の安全面で課題がある<br><br>■小中連携のことを考えるなら常盤小全区が西岐波中に通った方がいいと思いますが、通う距離が遠くなる家庭は納得できないと思います。<br><br>■常盤中学校の現状の施設規模を考慮すると常盤全区を西岐波中学校にすることを推奨する。<br>通学距離がデメリットであり、地域の方への理解を得ることが難しいと考える。（地域との連携が難しくなる）<br><br>**【推奨できない】**<br>■小中一貫教育の充実にとって、小学校と中学校の物理的な距離は大切な条件となる。常盤小学校と西岐波中学校との距離や、両小学校から中学校までの距離の大きな違いは、今後の小中一貫教育の展開を見据えたとき、回避しておくことが望ましいと考える。<br><br>■常盤小学校の児童が全員同じ中学校に行ける事は推奨できますが、新たな教育方法（小中一貫教育）を進める上で２小１中の解消をするただそれだけで通学区域の変更はかなりハードルが高いし、常盤小学校の児童がどうして一人も常盤中学校に行けないのか、誰も違和感を感じるのではないでしょうか。<br>常盤小学校が出来た時点で現在の中学校の通学範囲が決められているのだとしたら、現在通っている中学校の変更はこれだけの理由では難しいと考えます。 | |
| | | | 【案２】<br>常盤中に<br>常盤全区<br><br>**《地図》**<br>**資料４－３** | **【推奨できる】**<br>■何よりも大切に考えたい「安全・安心」という観点から、通学距離はできるだけ短くしたい。学校の立地状況等から、小中一貫教育が展開しやすいと考える。また、令和10年度には適正規模規準を超えるが、この少子化の流れの中で、いずれ減少することも予想できる<br><br>■２小１中の問題だけでなく、常盤中に通学している岬小学校を含む南部地区の通学区域の見直しも含んでの変更とすれば理解が得られると考えます。<br>具体的には岬小学校児童（恩田小の選択区域と再編候補区域を岬小学校の児童とする）を他の中学校に通学してもらい、現在常盤中学校に通学している生徒数を少なくすれば、常盤全区を常盤中学校に通学させても常盤中学校は適正規模基準を超える事はないと考えます。<br>加えて、常盤小学校の生徒全員が西岐波中学校にいく事よりも常盤中学校にいく事が自然と考えます<br><br>■【推奨理由】<br>・小中一貫教育を推進する観点からは、1小学校から2中学校進学が解消<br>【懸案事項】<br>・生徒数の観点からは、常盤中学校が適正規模の基準を超える。教室が不足する<br><br>■通学面の安全性等を考えると、常盤中学校をもう少し海側のところに移転すると、この案が一番良いと思います。<br><br>**【推奨できない】**<br>■適正規模を超えることになるので、審議会で決めた方針と異なるでの推奨できない。<br>■恩田小からの生徒が増加中、許容範囲を超えるのではないか。<br>■現実的に、人数が多くなりすぎてしまうと思います。<br>■通学距離が近いこと、常盤という同じ名称を使用していることから地域との連携が図りやすいのではないかと思うが、学校の施設規模に課題がある。 | |

◆神原中・上宇部中ブロック

| 学区 | 案 | 推奨できる理由や懸案事項など | 望ましい適正化案や懸案事項など |
|---|---|---|---|
| 神原中<br>上宇部中<br>（参考）常盤中 | 【案１】<br>神原中に神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）<br><br>**《地図》**<br>**資料４－４** | ■次の理由で推奨する。<br>・立地や規模、通学環境等、全体的にバランスがよい。<br>・地域からの要望という後ろ盾がある。<br>・前回の適正配置に係る協議会等の流れに沿っている。 | ■琴芝小学校と神原小学校と見初小学校を統合し、現琴芝小学校の敷地を活用して新しい小学校を開校する（教室確保の見通しができた後） |
| | | ■神原、見初、琴芝の統合は校舎、敷地等から当面、困難だろう。 | |
| | | ■通学の距離や安全面の確保などから概ね推奨できる。学校選択制導入地域からの理解も得られる。 | ■小学校まで一つに統合するには無理がある。琴芝小に合併吸収されたとしても、適正規模を越えるため審議の方針と反する。また、神原と見初は数年前の統合問題で合併しないと決めたので、よっぽどのメリットがないと統合は難しいと思われる。見初も敷地内にふれあいセンターを立ち上げたなら猶更今更見初を無くすことは困難かと思われる。地区住民の理解は得られない形。3小１校の案は望ましくないと思われる。 |
| | | ■琴芝小学校と神原小学校について考えると、隣接する小学校において、選択区域が設けられる理由が他の学校での選択区域の設定理由とは違っている中で、両校から進学する中学校が同じ神原中学校となる事は推奨出来る理由と思います。<br>ただ、見初小学校を入れた３校で考えると小学校での統合及び３地域からの要望である３小１中の義務教育学校の設置は現実的ではないと思います。 | ■選択区域の解消、学校の規模と現在の施設の有効利用から考えると、琴芝小学校と神原小学校の統合と併せて将来的には神原中学校を加えた義務教育学校の設立が望ましいと考えます。<br>この様にした場合、見初小学校をどうするかが懸案事項としてあげられます。どこに持っていくにせよ、統合はある訳ですから、見初小学校を含め見初地区の要望を抑えられるかが問題だと思います。 |
| | | ■【推奨理由】<br>・将来的に義務教育学校をめざしやすい<br>・神原中学校周辺の生徒が、神原中に進学でき、通学の安全も図りやすい。 | ■3小学校を統合した場合、当面は低学年を神原小学校で、高学年を琴芝小学校で学ぶ。<br>または、R10を目途に、義務教育学校をスタートさせ、小中の各校舎の有効活用を検討<br>(小１～4【神原小】、小5,6,中１【琴芝小】、　中2,中3【神原中】) |
| | | ■見初小、神原小、琴芝小は神原中まであまり遠くないのでいいと思います。 | ■学級数も2～3あるのでよいと思います。 |
| | | ■どの案にしても、神原中学校の位置が遠く、校区の端にあることが壁となっています。神原小、琴芝小をどちらかを小学校でどちらかを中学校にし、神原琴芝小中一貫校にしてはどうかと思いました。 | |
| | | ■３小１中の義務教育学校の設置に向け、前向きな内容であることは望ましいと思う。神原小学校校舎も合わせた敷地で検討してみるのはどうかと思う。（琴芝小・神原小直通の歩道橋なども） | |
| | 【案２】<br>神原中に神原・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）<br><br>**《地図》**<br>**資料４－５** | ■琴芝小学校校区は東西に長く、琴芝は神原中学校にエリア面からなじみやすい。 | |
| | | ■シンプルでわかりやすく、神原中に神原小と琴芝小の児童が通えることは距離的なことや人数的なことでもある程度メリットを感じられる気がする。 | ■見初小から常盤中への距離的課題はスクールバスなどでの対応なら可能。ただ、常盤中の位置自体がそもそも校区の中心にはないので、見初岬恩田校区の中心となる場所への移転新設は必要。その方が保護者の理解も得られる。 |
| | | ■琴芝小学校と神原小学校を統合する事は上記１案でも述べましたが推奨出来ると思います。<br>また、岬小学校と見初小学校の統合の結果は推奨出来ると思います。<br>ただ、メリットで書いてある。各中学校の適正規模の範囲内との事について、常盤小学校が西岐波中学校に進学する場合はそうだが、常盤小学校が常盤中学校に進学した場合は常盤中学校は範囲を超えるので、メリットとして列記すべきことかと思います。 | ■この案の場合、小学校で考えれば問題はないが、中学校の適正規模がネックとなります。<br>基本的に考えて、小学生の人数とそれに必要な教室の数を見れば中学校がパンパンになる訳ですから、新たに中学校を設定すれば、問題が解決すると考えます。 |
| | | ■見初小を常盤中校区にするのは反対です。以前の会議でも意見がでましたが、神原中の方が近いのにわざわざ坂の上にある常盤中学校まで通うのは納得できないのではないかと考えます。<br>（井上政） | ■案1、案2もとても良いと思います。神原小、琴芝小が近すぎるので統合することにより人数も適正になると思います。 |
| | | ■小中学校ともに適正規模になることは望ましいと思う。進学についても他校区と比べて距離が長くなるとは言えず、十分に可能な範囲だと思う。 | ■小学校のみの統合【案1】は適正化案として最適と思われるが、【案2】については中学の位置が不適だと感じる。 |

| 学区 | 案 | 推奨できる理由や懸案事項など | 望ましい適正化案や懸案事項など |
|---|---|---|---|
| | 【案３】<br>神原中に<br>神原・見初・琴芝全区（琴芝1区から1－10区まで除く）・岬（区域変更考慮後）<br><br>**《地図》**<br>**資料４－６** | ■長いスパンを考えれば、将来見えてくるが、道が遠い。 | |
| | | ■岬小から神原中へ通学困難であればスクールバスで対応するしかない。 | ■4小1中案は課題規模校となるため、審議の方針と反する。また、岬と見初の合併も地域柄と施設上、困難だと思われる（岬小新しい、見初小ふるいけどふれセン新築） |
| | | ■小学校の事を考えた場合、琴芝と神原、岬と見初の各統合は推奨できますし、選択区域の問題解決や通学負担の軽減などすべて推奨出来ます。 | ■この４つの小学校の児童を１つの中学校に通学させる事自体無理があると思います。<br>もし、この４小学校をこのようにするなら、別にもう一つ中学校を作るか小学校を中学校にしたらいいと考えました。 |
| | | | ■見初小の位置に神原中を設置<br>岬小に、現見初小校区と現岬小校区<br>琴芝小に、現神原小校区と現琴芝小校区 |
| | | ■資料4 - 6は恩田小も上宇部小もある程度の人数は毎年いるので、この案はいいと思います。神原中校区に岬小が入ったとしても、今まで常盤中に通っていた距離とほぼ同じか、近くなる校区もあると思います。 | ■案3もいいとは思いますが、やはり中学校の学級数が14学級になった時のクラスが足らない問題が気になります。前の会議の見初中は面白いと思いました。 |
| | | ■岬小校区は遠すぎると思います。 | |
| | | | ■適正規模を大きく超えており、これだけの規模を受け入れるには校舎の新築が必要になる |

**◈常盤中・（仮）見初中・上宇部中ブロック**

| 学区 | 案 | 推奨できる理由や懸案事項など | 望ましい適正化案や懸案事項など |
|---|---|---|---|
| 常盤中<br>仮称見初中<br>上宇部中 | 神原中を現見初小の位置に<br>移動し新たなブロックを編成<br><br>**《地図》**<br>**資料４－７** | ■狭くなる校地や校舎の改修等の条件から、推奨できない。 | |
| | | ■仮称中学校は考えない方がよい。話がややこしくなる。 | |
| | | ■一時の適正規模はとれてもその数年後は減り続ける地域なだけに新設するにも10年20年を見越した検討が必要。全く新しい小学校をつくるなどの魅力や旨味がなければ保護者や地域の理解は得られない。 | ■到底理解が得られない。学校の伝統も、学校を核とした地域づくりも、これまで培ってきたものが崩壊する。この形だと適正規模や通学の安全面を表立って言ったとしても、それはあくまで市の予算的なメリットであり、地域のためではない。 |
| | | ■見初小学校の位置に新に中学校を作る事は推奨できますが、琴芝小学校の児童で選択区域の児童が上宇部中学校に全員進学する事に対して納得するかが懸案事項として残ります。<br>また、見初小学校の児童を国道１９０号線で分ける事に対して、地元の合意が得られるかも懸案事項として残ります。<br>見初地区については、前回（厚東中学校と小野中学校の統合により厚東川中学校が出来た時）見直しの提案をしましたが地元からの意見で実現出来ていません。どのような理由でできなかったのかを学習すべきと考えます。 | ■中学校の適正規模と配置を考えた場合非常に合理的である事から、地元の合意が得られれば、この案はいいと思いますが、実施に向けてはかなり地元の抵抗があるのではないかと思います。<br>【私案】<br>私が考えるベストな見直し案は、琴芝・神原は統合し神原中学校へ。<br>（いずれは義務教育学校へ）<br>見初・岬（恩田小の選択区域の変更も併せ）は統合で見初中学校へ。<br>（いずれは義務教育学校へ）<br>常盤小全区と恩田小（一部岬小へ）は常盤中にすれば良いと考えます。<br>これで、小学校の統合は２校×２箇所で内１校は中学校に変えます。 |
| | | | ■・現見初小に小中一貫校又は義務教育学校を設置し、3小学校を統合<br>・常盤中学校を恩田小・常盤小の中心に設置 |
| | | ■見初中を作るなら、琴芝小も入れていいと思います。現に選択区域では、中学校を神原中に行かせたいから神原小に通わせたり、恩田小に通わせて常盤中に行かせたりが多いと思います。なので上宇部小と琴芝小全員を上宇部中に行かせると納得できない親が多いと思います。 | |
| | | ■学校の設置場所を見直し適正な配置を検討できるモデルとして推奨できる。隣接した小学校の問題も解決できるのではないかと期待できる。<br>過去の事例もあることから地域の理解が得られるかが大きな課題。<br>ふれあいセンター移設が学校施設規模として問題にならないか検討が必要。 | |
| | | | ■見初小を２分割し、神原小と岬小に通わせても適正規模にはならず、十分な学習環境を児童に提供できるとは言い難い。 |